

◆「ゲノム」について

ゲノムは、身体を作るための遺伝子情報のこと。ヒトの細胞数は三七兆個あり、身体を作るためのタンパク質に関する情報（遺伝情報）が書き込まれている。ヒト遺伝子情報は三万個程度。

※【テクノロジー】＝科学技術。広い意味で「技術全般のこと」

【科学技術】＝理科学的な知識を使って生活を役立たせるもの。

今、人類は膨大なゲノムを解析し、思い通りに操作し始めています。その技術は新型コロナウイルスや治療薬の開発にも利用され、パンデミックに立ち向かう重要な武器になっています。また、がんをはじめとする重い病の克服や、食糧危機といった地球規模の課題解決に大きな期待がかかっています。

二〇三〇年には地球上のあらゆる生命の遺伝子情報を手に入れることが可能になると言われています。人間があらゆる生命を自在に操作できるようになったその先に、何が待ち受けているのでしょうか。

人類の欲望に歯止めがかからず、誰よりも美しく、能力の高い、思い通りの子どもを生みだすデザイナーベビー（設計された赤ちゃん）が誕生するかもしれません。人間の価値がゲノム情報をもとに判断され、優れた遺伝子をもつ者と、そうでない者の格差が広がり続ける社会が目の前にやってこようとしているのです。

◆「クリスパー・キャス9（ナイン）」とは？

二〇二〇年一二月にノーベル賞を受賞した、ジェニファー・ダウドナ博士とエマニュエル・シャルパンティエ博士が発見した画期的な技術のこと。チーズやヨーグルトに含まれる乳酸菌などがもつ特殊なタンパク質を細胞の中に注入することによって、思い通りにゲノムの配列を変えることができる。

◆ユネスコ国際生命倫理委員会議長

エルヴェ・シュネイヴエス氏の言葉

「テクノロジーの進化があまりにも早いいため、人々の理解がおいついていません。このような強力な技術を議論もないまま使うのは非常に危険。私たちは、もはやテクノロジーの単なる消費者ではいられません」「二〇三〇年に何がおきるかは、私たち自身にかかっています。私たちは驚くべき可能性と同時に、とてつもなく大きな責任も背負っているのです」

◆島藺進氏の言葉

「命というのは授かるものだったわけです。結婚したら子どもを作ると言うけれども、作ろうと思っても作れるもんじゃないので：授かる。どういう子どもかというのは分からない。思ったような子どもじゃない、これは育てていてもそうならぬのですが、思ったような子どもを作るといふ、そういうことをし始めるということですね。これは命の選別と言ったりしますけど、そういうことが起こるといふのは、命を作ることになる。作る命は壊せるんですよ、モノに近づいてくる。命の尊さの基本感覚というものが怪しくなってくる可能性がないでしょうかね」

NHKスペシャル 2030 未来への分岐点（4）

「『神の領域』への挑戦～ゲノムテクノロジーの光と影～」参照

（2021年6月6日放送）

※詳細はこちらをご覧ください→

関連書籍：「2030 未来への分岐点2 テクノロジーは神か悪魔か」（NHK 出版 2021.11）



番組QRコード 番組ブログ(内容)